

科目名	医療ICT		担当教員名	幸 康 正		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15時間)	
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学」: 医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
コンピュータが使える歯科医療技術者として活躍するために、コンピュータに関する基礎的な知識と利用法を理解する。必要なデータや情報を有効活用するために、「インターネット等を利用した情報収集」「開示に関する基本的知識」「技能および態度」を修得し、ICTリテラシーが向上することで医療機器類の取り扱い方法・技術を修得する。							
到達目標							
1) 医療ICTリテラシー ① 歯科用CAD/CAMの構成する基本的装置の名前を列挙できる。 ② 歯科用CAD/CAM使用時の作業の流れを説明できる。 ③ 歯科用CAD/CAM機器を操作することができる。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
歯科用CAD/CAMの構成する基本的装置			2	歯科用CAD/CAMの構成する基本的装置や、歯科用CAD/CAM使用時の作業の流れを理解でき、歯科用CAD/CAM機器を操作を理解する。  毎回、復習課題を課す。			
CAD/CAMを活用した歯科技工			2				
デジタル歯科用ソフトの概要			2				
歯科用CAD/CAM機器の基本操作			2				
歯科用CADソフトの操作			2				
歯科用CAMソフトの操作			2				
加工機の操作			3				
合 計			15				
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。復習課題は、期日までに提出し確認および添削指導を受けること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果70%、復習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の復習課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科技工(診療)施設の実務経験からの知見をもとに、デジタル歯科技工の基礎知識、システム、機能修復に関する講義、および関連機器の取り扱いを教授する。							



科目名	社会学		担当教員名	野見山和貴/安部好美		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(30時間)
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書						
授業の概要とねらい						
<p>自身の置かれた社会的な位置づけを、社会人、医療人として自覚し社会生活を営む上で、他者の意見を整理し自分の意見を相手に伝達するための基本的知識、技能および態度を修得する。医療現場でのモチベーションとインセンティブについて理解する。</p> <p>産学連携企業より特別講師を招聘し、社会が求める医療人や社会人としての姿を構築する</p>						
到達目標						
<p>1)コミュニケーション 2)接遇とマナー 3)コミュニケーションスキル 4)社会構造を知る 5)歯科医療現場での内発的動機付け ①歯科技工の業界構造を説明できる。②モチベーションを構築する。</p>						
授業計画						
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
コミュニケーションの定義			2	コミュニケーションの定義を説明できる。 コミュニケーションの種類を分類できる。		
コミュニケーションの種類						
接遇とマナー			2	社会人、医療人として社会生活を営む上で、正しい言葉遣い、TPOに適した身だしなみ、などを身に付ける。		
正しい言葉遣い TPOに適した身だしなみ						
客観的臨床能力試験事前教育			4			
医療従事者としてのモチベーション			4	歯科医療現場における内発的動機付け。		
歯科医療界と歯科技工の業界構造			18	歯科技工の業界構造を理解する。		
				毎回、レポート課題を課す。		
合計			30			
時間外学習について						
事前予習を含め、講義時間の他に60時間の自学を要する。また、教授された知識、技能をレポート課題として反復し蓄積すること。指摘された箇所については再評価をもらうこと。						
成績評価の方法及び評価割合について						
レポートの評価70%、レポート課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						

科目名	歯科技工管理学(特講)			担当教員名	赤木唯/安部好美		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工		学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月	～	9月	授業形態	○ 講義	○ 演習	実技
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学」:医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ①歯科技工と歯科医療【第2版】:医歯薬出版 / 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。							
到達目標							
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1	最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学:医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策①歯科技工と 歯科医療【第2版】:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版  歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標 に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向 と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし 弱点強化を行い、法律の知識を修得する。 毎回、復習課題を課す。		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
合 計				15			
時間外学習について							
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果70%、復習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の復習課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科臨床での経験から必要となる法的知識やコンプライアンス、医道倫理、歯科衛生行政、等の内容を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。							

科目名	解剖学(特講)		担当教員名	安部 好美		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験
学科名	歯科技工		学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	○	演習
教科書 及び参考書	最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学: 医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ②歯・口腔の構造と機能【第2版】: 医歯薬出版/歯科技工士国家試験問題集: 医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。							
到達目標							
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)							
授業計画							
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1	最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学: 医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ②歯・口腔の構造と機能【第2版】: 医歯薬出版 / 歯科技工士国家試験問題集: 医歯薬出版  歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、解剖学的知識を修得する。 毎回、課題を課す。				
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化		1					
合 計		15					
時間外学習について							
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科臨床施設等の臨床現場で得た多くの「口腔内および頭頸部顎顔面領域」の知見より、歯科技工臨床で必要となる歯牙形態の知識、および顎口腔系の解剖学的基礎的知識を、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。							



科目名	顎口腔機能学(特講)		担当教員名	安部 好美		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15 時間)
実施時期	4 月 ~ 9 月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 実技
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 顎口腔機能学」【第2版】:医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ②歯・口腔の構造と機能【第2版】:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版					
授業の概要とねらい						
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。						
到達目標						
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)						
授業計画						
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 顎口腔機能学」【第2版】:医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ②歯・口腔の構造と機能【第2版】:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版  歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、顎口腔機能学的知識を修得する。 毎回、復習を課題として課す。		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
合計			15			
時間外学習について						
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。						
成績評価の方法及び評価割合について						
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						
歯科診療施設等での臨床現場での補綴物製作時に得た多くの知見より、補綴修復時の下顎機能運動の基礎となる内容を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。						



科目名	歯科理工学(特講)		担当教員名	野見山 和貴		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15 時間)	
実施時期	4 月 ~	9 月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 実技
	○は主、△は併用						
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科理工学」【第2版】: 医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集: 医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ③歯科材料・歯科技工機器と加工技術【第2版】: 医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。							
到達目標							
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科理工学」【第2版】: 医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策③歯科材料・歯科技工機器と加工技術【第2版】: 医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集: 医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、歯科理工学的知識を修得する。 毎回、復習のため課題を課す。		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
合計				15			
時間外学習について							
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科臨床で得られたの見解より、歯科材料の化学・物理的性質、組成、特性、使用法などの基礎知識や、機器の取り扱いなどに関する内容を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。							

科目名	有床義歯技工学(特講)		担当教員名	野見山 和貴		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月～	9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> ○は主、△は併用
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」【第2版】:医歯薬出版 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ④有床義歯技工学」【第2版】:医歯薬出版					
授業の概要とねらい						
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。						
到達目標						
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)						
授業計画						
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本有床義歯技工学」:医歯薬出版 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「新・要点チェック歯科技工士国家試験対策④有床義歯技工学」【第2版】:医歯薬出版  歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯科技工学的知識を修得する。 毎回、復習として課題を課す。		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
合 計			15			
時間外学習について						
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。						
成績評価の方法及び評価割合について						
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						
歯科臨床で得られたの知見より、臨床での有床義歯の基礎知識や製作時の歯科技工操作、製作技術を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。						

科目名	有床義歯技工学(実習Ⅱ)		担当教員名	赤木 唯		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工		学科		単位数(時間数)	4単位(150時間)
実施時期	4月～	3月	授業形態	講義	△	演習
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」:医歯薬出版 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版				実習	○
実技						実技
						○は主、△は併用
授業の概要とねらい						
有床義歯補綴治療における歯科技工技術(全部床義歯・部分床義歯の製作や、義歯製作過程で使用される、個人トレー、咬合床)を習得できる。						
到達目標						
以下の事項の説明および技工操作ができる。						
1) 金属床義歯(部分床義歯)の症例検討・設計・製作 ①症例検討 ②症例に応じた設計 ③金属床義歯の制作						
2) ワイヤーフレームワーク ①ワイヤークラスプ屈曲 ②補強線屈曲 ③仮着・ロウ着						
3) 全国歯科技工士教育協議会実技評価試験対策(全部床義歯人工歯排列・歯肉形成120min/1ケース)						
授業計画						
授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
(前期)						
金属床義歯(部分床)概説	1	金属床(部分床義歯)の材料など概説を理解する。				
金属床義歯(部分床)の症例検討	3	金属床(部分床義歯)の適応例を理解する。				
金属床義歯(部分床)設計	2	金属床(部分床義歯)の適切な設計を理解する。				
サベイング、ブロックアウト、リリーフ	4	サベイング、ブロックアウト、リリーフなどを適切に行える。				
副印象・耐火模型製作	3	副印象・耐火模型の意義と目的を理解し製作できる。				
ワックスアップ	10	金属床(部分床義歯)に関わるワックスアップを行える。				
スブルーイング・埋没	3	鑄造のための適切なスブルーイングと埋没を行える。				
焼却・鑄造	5	機器の取り扱いを理解し、安全に焼却・鑄造が行える。				
取り出し・研磨	10	審美的・機能的な金属床のための取り出し・研磨を行える。				
実技試験対策3回(模型製作を含む)	45	実技試験合格ための力を養成する。				
(後期)						
ワイヤークラスプ・フレームワーク(屈曲)	15	ワイヤークラスプ・フレームワークを適切に屈曲できる。				
ワイヤークラスプ・フレームワーク(ロウ着、研磨)	4	ワイヤークラスプ・フレームワークのロウ着・研磨を行える。				
総義歯人工歯排列・歯肉形成(120min/1ケース)	45	総義歯人工歯排列・歯肉形成を120分で行う力を養う。				
合計	150	全期間を通じ、課題を課す。				
時間外学習について						
教科書の事前予習を含め、実習時間の他30時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認及び添削指導を受けること。						
成績評価の方法及び評価割合について						
定期試験(実技)の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。・提出物及び出席による総合評価。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。						
臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床において有床義歯製作の難症例にも対応できる高度な製作技術手技を教授する。						

科目名	歯冠修復技工学(特講)			担当教員名	増岡 慶奈			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	歯科技工		学科	学年	2	単位数(時間数)		1単位(15時間)		
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	○	演習	実習	実技	
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学【第2版】:医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策⑤歯冠修復技工学【第2版】:医歯薬出版/歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版									
授業の概要とねらい										
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。										
到達目標										
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)										
授業計画										
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1	最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学【第2版】:医歯薬出版 新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ⑤歯冠修復技工学【第2版】:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版  歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、歯冠修復技工の知識を修得する。毎回、復習内容の課題を課す。					
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1						
合 計				15						
時間外学習について										
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。										
成績評価の方法及び評価割合について										
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での歯冠修復補綴物製作の知識、クラウン・ブリッジの適応、インプラント学、CAD/CAM、に関する内容を、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。										

科目名	歯冠修復技工学(実習Ⅱ)			担当教員名	増岡慶奈			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	歯科技工		学科	学年	2		単位数(時間数)	4単位(150時間)		
実施時期	4月	～	1月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技	
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」【第2版】:医歯薬出版 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版									
授業の概要とねらい										
歯冠修復治療において高度な歯科技工技術が必要とされる補綴装置について、その知識と製作技術を修得する。										
到達目標										
以下の事項の説明および技工操作ができる。										
1) CAD/CAMシステム										
①スキャナーの操作 ②CADの操作										
2) レジン前装金属冠										
①レジン金属冠のメタルワーク ②レジン築盛 ③レジンの形態修正 ④色調修正										
3) 全国歯科技工士教育協議会実技評価試験対策(全部金属冠Wax-up 60min/1ケース)										
授業計画										
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
CAD/CAM作業用模型の製作				15	CAD/CAM加工に適した支台歯形成の特徴を理解する。					
CAD/CAM作業用模型のスキャニングデータの作成				10	スキャナーの取り扱いを理解し、実施する。					
レジン前装ブリッジ(前歯部)製作				40	ブリッジの製作手順と注意事項を理解する。					
支台築造(応用)				18	様々な症例に適応した支台築造を行う。					
全国歯科技工士教育協議会実技評価試験対策				67	全部金属冠Wax-up(60min/1ケース)で実施する。					
					全期間を通じ、反復練習および時間内に製作できなかった歯科技工物の仕上げを課題とする。					
合 計				150						
時間外学習について										
教科書の事前予習を含め、実習時間の他に30時間の自学を要する。また、指示された課題を行いきり日までに提出し確認および添削指導を受けること。										
成績評価の方法及び評価割合について										
定期試験(実技)の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。 評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。 尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床における難症例にも対応できる高度な製作技術を教授する。										

科目名	矯正歯科歯技工学(特講)		担当教員名	増岡 慶奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>
				<input type="radio"/>	実習	<input type="radio"/>
				<input type="radio"/>	実技	<input type="radio"/>
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本矯正歯技工学」:医歯薬出版【第2版】 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ⑥矯正歯技工学・小児歯技工学」:医歯薬出版【第2版】					
授業の概要とねらい						
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。						
到達目標						
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)						
授業計画						
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本矯正歯技工学」:医歯薬出版【第2版】 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「新・要点チェック歯科技工士国家試験対策⑥ 矯正歯技工学・小児歯技工学」:医歯薬出版【第2版】  歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯技工学的知識を修得する。 毎回、復習のため課題を課す。		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化			1			
合計			15			
時間外学習について						
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。						
成績評価の方法及び評価割合について						
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						
歯科診療施設での実務経験から得られた知見により、矯正歯科臨床の流れや、歯科技工士の役割・製作する装置に関する基礎的な知識を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。						

科目名	小児歯科技工学(特講)		担当教員名	増岡 慶奈		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験
学科名	歯科技工		学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習
					<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>
					<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本小児歯科技工学」【第2版】:医歯薬出版 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ⑥矯正歯科技工学・小児歯科技工学」【第2版】:医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。							
到達目標							
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本小児歯科技工学」【第2版】:医歯薬出版  「新・要点チェック歯科技工士国家試験対策 ⑥矯正歯科技工学・小児歯科技工学」【第2版】:医歯薬出版  歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯科技工学的知識を修得する。 毎回、復習のため課題を課す。		
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化				1			
合 計				15			
時間外学習について							
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの知見より、小児期における成長・発達歯科分野の基礎知識と、小児歯科臨床で用いられる咬合誘導装置の適応症例を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。							





科目名	国家試験ゼミ			担当教員名	安部好美			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	歯科技工		学科	学年		2		単位数(時間数)	4単位(80時間)	
実施時期	10月	～	2月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	実技
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本」全教科目:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 全教科目:医歯薬出版									
授業の概要とねらい										
国家試験ゼミにおいて、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向の分析と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らした学力を修得する。 国家試験模擬試験(学内/医歯薬出版/全国歯科技工士教育協議会)										
到達目標										
歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)										
授業計画										
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
第1回	校内模擬試験、および解説	5	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本」全教科目:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 全教科目:医歯薬出版 国家試験ゼミにおいて、国家試験模擬試験(学内/医歯薬出版/全国歯科技工士教育協議会)を通し、歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)まで学力を向上させる。歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向の分析と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らした学力を修得する。 全期間に渡り、国家試験過去問題および模擬試験の復習を課題とする。							
第2回	校内模擬試験、および解説	5								
第3回	校内模擬試験、および解説	5								
第4回	校内模擬試験、および解説	5								
第1回	全国歯科技工士学校協会 模擬試験 および解説	5								
第5回	校内模擬試験、および解説	5								
第6回	校内模擬試験、および解説	5								
第2回	全国歯科技工士学校協会 模擬試験 および解説	5								
第7回	校内模擬試験、および解説	5								
第8回	校内模擬試験、および解説	5								
第1回	医歯薬出版 全国一斉模擬試験 および解説	5								
第9回	校内模擬試験、および解説	5								
第10回	校内模擬試験、および解説	5								
第11回	校内模擬試験、および解説	5								
第3回	全国歯科技工士学校協会 模擬試験 および解説	5								
第12回	校内模擬試験、および解説	5								
合 計		80								
時間外学習について										
教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に145時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。										
成績評価の方法及び評価割合について										
卒業試験の結果80%および出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
歯科臨床で得られたの知見より、歯科技工に関する総合的な知識を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。										